

総務省の遠隔医療に関する取組

令和元年11月
総務省

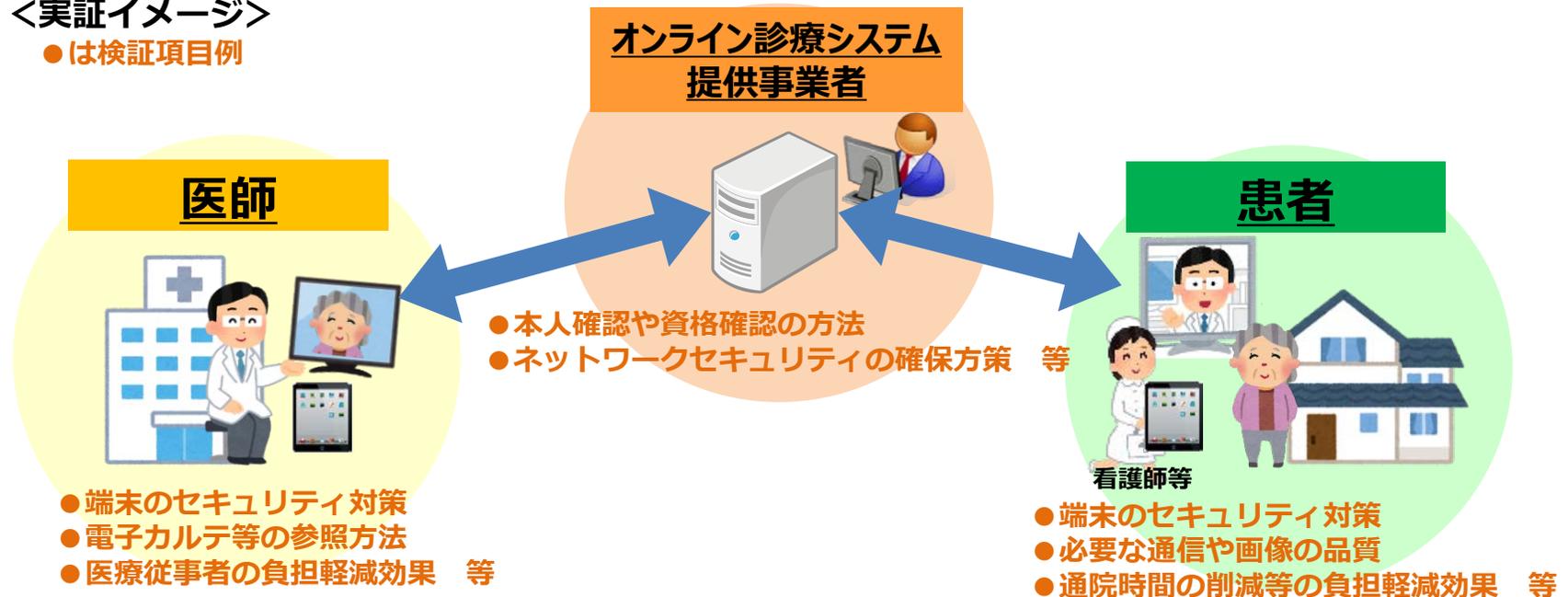
オンライン診療モデルの構築に向けた実証（H30）

1. 調査研究の全体像

平成30年3月30日に厚生労働省が公表した「オンライン診療の適切な実施に関する指針」や平成30年4月からの診療報酬の新設等によりオンライン診療の普及が見込まれる中、主に技術的な観点から、安全かつ効果的なオンライン診療実施モデルを構築するための実証等を実施。

<実証イメージ>

- は検証項目例



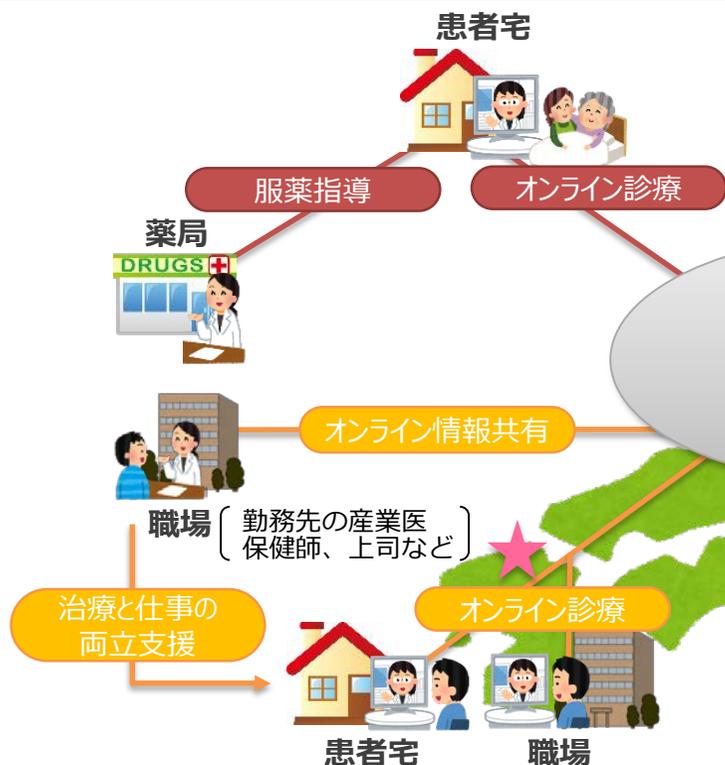
- ・ 地域特性（都市、地方）及び対象とする患者の状況（通院困難、慢性疾患等）について、異なるモデルを有する4箇所のフィールドで実証
- ・ 医師、患者等の協力を得て、オンライン診療の導入プロセス（体制、規程、システム選定等）や実施手順（システム動作確認、本人確認、記録方法等）等を明確化

2. 地域実証（各フィールド概要）

異なる性質を有する4フィールド（①福岡県福岡市、②茨城県つくば市、③愛知県名古屋市、④神奈川県藤沢市）で実証を行い、各フィールド特有のモデルの検証を実施した。

①都市型実証【福岡県福岡市（都市部）】

オンライン診療の適用となる主要パターンを網羅的に洗い出し、診療から処方、服薬指導までの一連のプロセスの実証を実施（一部患者においては、特区での遠隔服薬指導も実施）

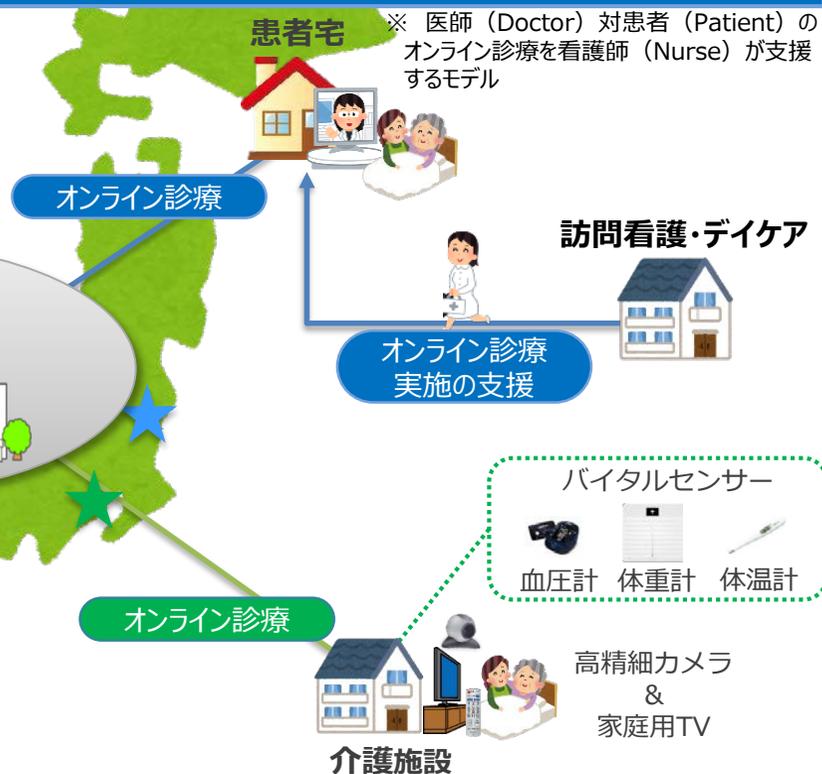


③職域連携型実証【愛知県名古屋市（都市部）】

生活習慣病の慢性疾患管理が必要な患者（勤労世代の糖尿病患者）を対象に、職場との連携による、仕事と治療の両立に資するオンライン診療モデルの検証を実施

②DtoPwithN※モデル型実証【茨城県つくば市（地方部）】

通院を要するが交通手段の問題から定期受診が困難な患者、自宅での療養が求められる患者を対象に、地域包括ケアの構築に貢献するDtoPwithNモデルの検証を実施



④施設型実証【神奈川県藤沢市（地方部）】

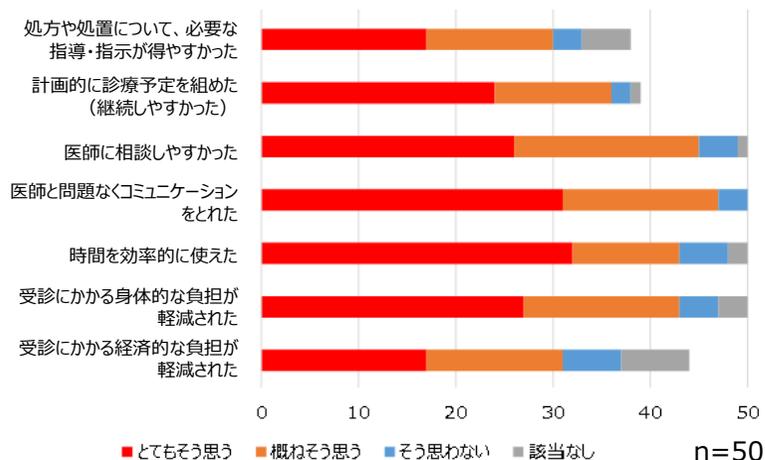
介護施設において療養を行っている患者を対象に、家庭用TVやIoT機器等を活用した、施設型の遠隔在宅診療モデルの検証を実施

2. 地域実証（患者アンケート・医師ヒアリングによる有効性評価）

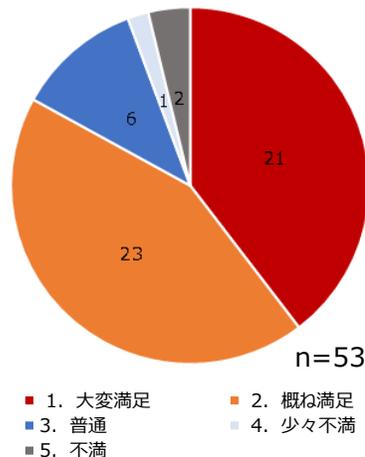
① オンライン診療実施後の患者側の評価

- オンライン診療支援者のサポートがあった場合もあり、全体的に問題なく受診ができていた。「時間が効率的に使えた」「受診の身体的な負担が軽減された」等のメリットがあげられた。
- 回答者の8割以上が「大変満足」、「概ね満足」と回答しており、患者の満足度は高かった。また今後のオンライン診療の受診の継続についても前向きな回答が多かった。

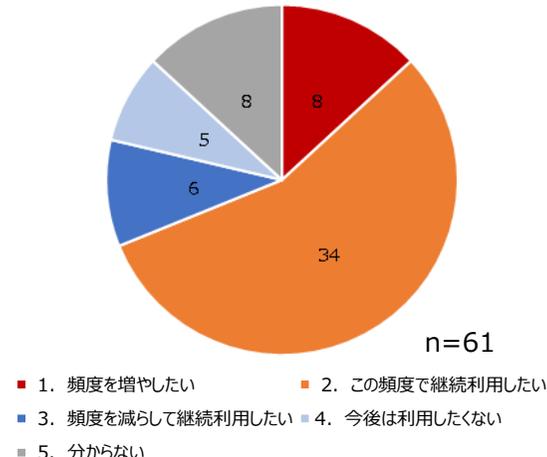
オンライン診療を受診しての感想



オンライン診療の満足度



今後のオンライン診療利用意向



② 医療機関側の評価

主な調査項目

調査結果の傾向・まとめ

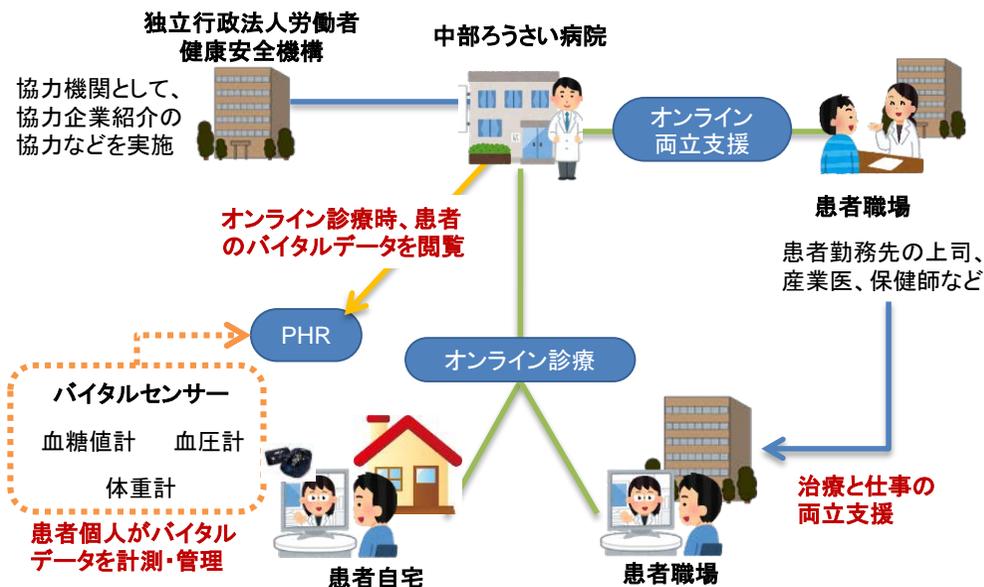
- | | |
|-------------------------|--|
| 1. オンライン診療を実施するための準備や環境 | <ul style="list-style-type: none"> ● オンライン診療の実施にあたっての、画質や音声などの精度は十分であるとの評価が得られた。（一部、患者の通信状況により、映像の不具合が生じるケースもあった。） ● 高齢患者の場合、看護師やオンライン診療支援者の補助を必要とする場合が多かった。 |
| 2. オンライン診療のメリット・有効性 | <ul style="list-style-type: none"> ● 対面診療の補完的役割を果たすことができる。 ● 身体的、時間的な理由から来院して対面診療を受けるのが難しい患者の通院負担を低減することで治療の継続率が向上する。 ● 経過観察をする必要がある患者の様子を、きめ細かく観察することができる。 ● 通常の対面診療に加えてオンライン診療を実施することで、患者・医師のコミュニケーション機会が増加し、患者の安心感向上に繋がる。 ● 患者家族や自宅の様子を医師が確認することができ、診療の質向上に寄与する。 |

（1）オンライン診療（DtoP : Doctor to Patient）

本年度も引き続き、主に技術的な観点から、安全かつ効果的なオンライン診療実施モデルを構築するための実証等を実施。

① バイタルデータも活用した勤労世代の糖尿病等疾病管理

糖尿病は患者による日々の自己管理が重要であるが、継続的な自己管理が課題であるため、患者個人が計測したバイタルデータ(血糖、血圧、体重)を医師がオンライン診療時に活用することによる有用性等を検証。



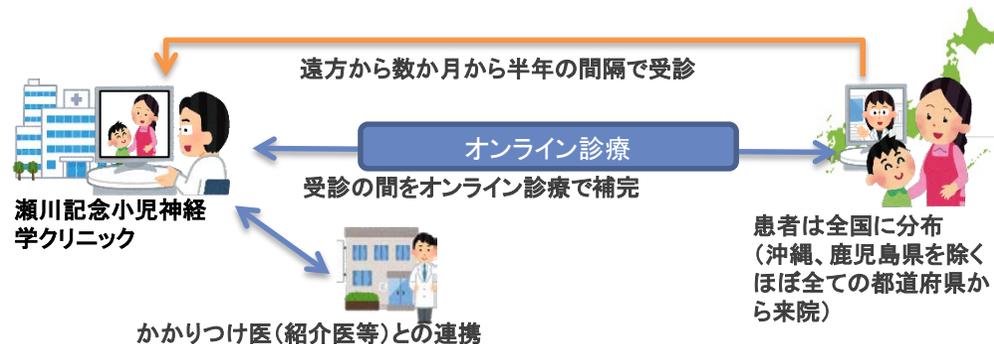
② 訪問看護と在宅診療の連携によるDtoPwithNモデル

在宅診療を担う医師等の不足といった課題に対応するため、訪問看護師が訪問看護時にタブレット端末やIoT機器を持参してオンライン診療を支援し、有用性等を検証。



③ 来院が困難な小児神経疾患患者のオンライン診療

小児神経疾患(難病、難治、希少疾患等)の患者は、近辺に専門医がおらず、遠隔地の専門医への通院負担が大きい場合がある。そのような患者を対象にしたオンライン診療の運用面(かかりつけ医との連携)や有用性等を検証。



（2）遠隔医療（DtoD：Doctor to Doctor）

DtoDの遠隔医療について、地域医療の確保や医師の不足への対応等のため、以下の取組を行う。

- ① 遠隔医療の現状調査及び課題等の整理
- ② 脳卒中等の循環器疾患についての遠隔救急支援や、遠隔コンサルテーション（テレビ会議システムを用いた専門医による診療医への診療支援）についての参照可能なモデルの策定
- ③ 5Gや4K・8K等の遠隔医療への活用にあたっての課題等についての整理
- ④ 遠隔病理診断及び遠隔手術支援についての実証等

主な遠隔医療(DtoD)の種類

■ 遠隔コンサルテーション・カンファレンス

遠隔地にいる専門医が診療医に対しテレビ会議システム等により助言や症例検討等の支援を行うもの。

■ 遠隔画像診断

X線写真やMRI画像等の放射線科で使用される画像を他医療機関の画像診断医に送信し、読影を行うもの。

■ 遠隔病理診断

病理検査の標本画像等を他医療機関の病理医に送信し、読影や診断を行うもの。

■ 遠隔救急支援（脳卒中・循環器病対策）

スマートフォン等のモバイルICTシステムを用いて、脳卒中患者の画像情報を医療機関間で共有し、診断・治療までの時間短縮を図るものや、急性心筋梗塞患者の心電図情報を救急隊から医療機関に共有し、診断・治療までの時間短縮を図るもの。

■ 遠隔手術支援

手術映像等をリアルタイムで伝送し、遠隔地にいる医師が手術支援を行うもの。

